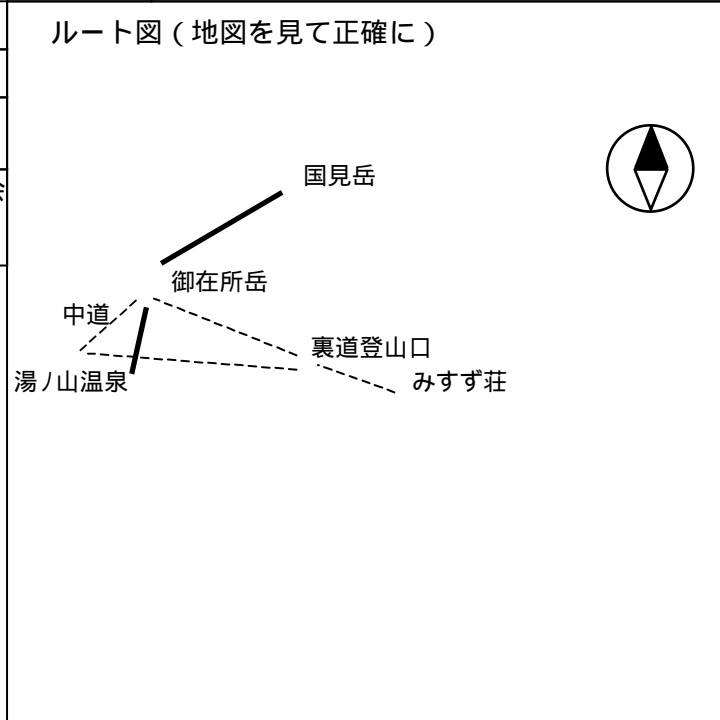


1 月度例会 山 行 報 告 書			報告者	長島博美	参加 メンバー	CL: 藤田健治 SL : 竹内 幹雄、塚本 英吾、 亀山 誠、山田 明、長島 博美
			報告日	2月9日		
山 域	鈴鹿山脈	山行日	2005年2月5日(土)			
山 名	御在所岳					
山行目的	氷雪訓練	コースタイム(天候:天気図記号)				

配布先  
集会:12  
山行:1  
リ-ダ-  
原紙:集会  
担当者



8:20 みすず荘発 - 曇り  
8:50 裏登山口発 - 曇り時々晴れ  
9:25 藤内小屋(10分) - 曇り、雪降り始める  
11:40 氷壁 - 雪  
12:00 TOP - 曇りとガス  
12:30 下山開始 - 曇り  
13:15 岩(10分) - 曇りのち晴れ  
13:55 中登山口 - 晴れ  
2:30 ゲートに戻る - 曇り

日帰り温泉: 希望荘

山行報告 一宮発5時。途中道に迷うが7時50分みすず荘着。藤田さんたちと合流、8時20分みすず荘発。夏のやまびこ時は道路の陥没などの影響で熊牧場に駐車し歩き始めたが、雪の中でも今回はゲートまで車で行けた。裏登山口から入り藤内小屋までアイゼン無しで進む。雪がある為に景色はまったく違うが、特徴ある木、沢や橋などで夏の御在所を思い出し懐かしく思う。藤内小屋でアイゼン装着。初めてのアイゼン使用。付近をうろろしてみたが実際に歩き始めるまでイメージが沸かなかった。登るにつれ積雪量も増えていった。歩き始めてからはアイゼンに自分の足が引っかかり何度も転びそうになる。藤田さんや亀山さんに歩き方を指導されながら徐々に慣れ始めた頃、ラッセルの訓練始まる。竹内さんのお手本を見ながら自分なりに試すが、斜面にこのような急傾斜のラッセルに、足が思うように上げられず、一歩を進める事も困難だった。足の運び方をひざを支点にと言われたが体が思うように動かせず、非常に悔しく思った。竹内さん、亀山さん、塚本さんがラッセルしているのを見たが、その速さと確実に進む一歩一歩に自分との違いを強く感じた。少し登った所で氷壁に出る。氷壁では10人ほどがice climbingしていた。若い女性も何人かいた。いつか自分も試して見たいなと思いつつ眺めた。順番待ちしている人たちは寒そうだった。氷壁から山頂まではおよそ20分とすぐだった。山頂では樹氷が美しく、多くの写真家がいた。軽い昼食後、下山。竹内さんの軽快なフットワークにリードされ、下山はわずか1時間25分。初めての雪山は空気が清々しく、また夏に登った同じ山を冬に登る事ができた事で、夏と冬の違いがはっきりと体感でき、非常に良い経験となりました。

確認  
(リ-ダ-)  
  
作成  
報告者)

リーダー所見



岩場(鎖有り)を登る。夏と冬では同じ岩場でも、まったく違う感触や景観に驚きました。(長島)